



赤城山の
susono
で暮らす
4

おいしいあさね房
吉崎亜紗子さん

なか又
金井沙織さん

前橋でつながった、お菓子なご縁

同じ大学から同じまち お菓子づくりの道へ

お菓子を作りながら前橋時間を楽しむ2人の女性がいる。フリーランスのお菓子作家で「おいしいあさね房」主宰の吉崎亜紗子さん(29)は、神奈川県川崎市出身。商店街にオープンした和菓子店「なか又」で働く金井沙織さん(29)は、群馬県桐生市出身だ。2人は、都内の同じ大学に通っていた上に、ほとんど同じタイミングで群馬へ拠点を移した。さらに今では同じまちでお菓子づくりに励んでいるという、なんとも不思議な縁でつながっている。桐生に住む金井さんも、職場のある前橋への移住を検討中だという。

吉崎「沙織ちゃんとの出会いは大学でした。友達の友達という感じではあったものの、出身が群馬ということは知っていたので気になっていました」

金井「大学を卒業してから数年後のある日、共通の友人の結婚式で亜紗子ちゃんと再会したんです。それも、お互いにこれから群馬に移り住むというタイミングで！」

吉崎「二人ともお菓子を作るのが好きだったこともあって、ものすごく盛り上がったんです。『群馬でやりたいことやろうよ』って変に燃えちゃって(笑)」

金井「地元の桐生に戻ってしばらくして前橋で働くようになりました。いま勤めている「なか又」は、オープンしてから半年ほど。仕込みや新商品開発など積極的

に店づくりにも関わらせてもらい、楽しく働いています。売り上げや来客数に波があるのは大変なことですが、なによりお客さんが来てくれるということがとにかく嬉しくて」

吉崎「東京ではずっとお店勤めをしていました。前橋に来る直前は、赤坂の日本酒を扱うお店で料理をしながらお酒に合うスイーツを作ったりしていました。が、パトナーの暮らす前橋に移住することをきっかけに、それならフリーランスになつてみよう」と勢いだけでフリーのお菓子作家を始めました。前橋にはおばあちゃんの家があって、小さい頃から何度も訪れていたの、私にとっては故郷のような場所でもありました。ところで沙織ちゃんは、いつ前橋に引っ越してくるの……?」

金井「いつも亜紗子ちゃんから誘われるんですが……引っ越し先を探すと言いついてから、もう1年くらいは経っています(笑)。車通勤だと片道1時間というところもあり、移住したいです。今日がいいきっかけになればなって(笑)」

人とのつながりが作る 歩きたくなるまち

吉崎「今ではちょっとずつ人とのつながりが増えてきましたね。料理教室、オーダーをいただく作るケーキ、手作りのお菓子で参加するイベント出店が日頃のお仕事なのですが、こうした機会はみんなの負担を減らすために全部広場にするといような引き算タイプが多いのになって気がするんですよ。ぼくは建築というものが大好きなので、建築にもっとできることがあるんじゃないかと思っていました。そんな中でMMAは、建築物をつくることで、まちを変えるんだという力強さを感じました」

チャレンジしやすい まちのスケール感

吉田「このまちには、あらゆるきっかけがごろごろ転がっています。商店街では、お店の方や知り合いとすれ違いざまに挨拶をして、イベントではたまたま来ていた友人と語り合います。他にも取材や打ち合わせ、まち案内などを通して本当に様々な人に出会えますし、最近増えてきたアート関連の動きや新しいお店のオープンなどからも、色々な発見があります。その気になってセンサーを動かせば、働き口や新しい趣味を見つけることができるでしょうし、どんなふうにも変化したり、進むことができるまちだと思います」

吉田「このまちのスケール感なら、チャレンジがしやすいと思います。自分にやりたいことがあって悩んでいる人は、前橋でやってみたら面白いんじゃないでしょうか。若い人や新しいことを始める人が沢山いますし、地元の新潟にもまちの動きをシェアしたいと思うくらい、毎日が面白いことだらけです」

金井「素敵なお店が増えてるのも嬉しいですよ。なか又の隣にある手打ちパスタ店のGRASSA、タイ料理のセマクテやガレット屋さんのcafe le coconなど、つい立ち寄りたくなってしまいうようなお店ばかり。欲を言えば、ヘルシー系のお店もほしいな。毎日ヨガをしてチアシードとかアサイーを食べたりしたいです」

吉崎「サラダボウルのお店、近くにあって絶対使いたい」

金井「自宅でもできるんだけど、外で食べたほうが気持ちいいんですよ」

吉崎「前橋も、古い建物をリノベーションして使うお店がもっと増えたらいいですよ。ただ、普段の生活という面では暮らしやすいまちだなと思います。帰省やお仕事で東京方面へ行く時もアクセスがいいです。お菓子教室に来てくださっているママさんたちも、子育てがしやすいまち」と話しています。一方で、車社会だから全然歩かなくなってしまうました。東京に行ったとき、乗り換えで息が切れちゃって……やばい！運動不足です(笑)」

金井「やっぱり、歩きたくなるようなまちがあるといいってことじゃない?」

吉崎「うん、そうかもしれないね(笑)」

金井「早く新しいお家を決めるから、一緒に飲みに行こうね。歩こう!」

吉崎「その日がやってくるのを楽しみにしています!」

「susono」vol.5(平成31年2月28日発行)発行時の記事を元に一部加筆・修正しました。



きっかけごろごろ
チャレンジできる街

赤城山の
susono
で暮らす
3

前橋まちなかエージェンシー
館 孝幸さん

吉田 祐介さん

まちなかに住み始めて 価値観が変わった

まちなかの商店街の一角に、大学生と社会人の6名が住むシェアハウスがある。前橋工科大学への進学を機に前橋へやってきた、富山県出身の館孝幸さん(26)と鳥取県出身の吉田祐介さん(25)の2人は、学生時代にこのシェアハウスに住み始め、卒業後も前橋へ残ることを決意。のちに、前橋のまちづくりを担う団体として立ち上がった「前橋まちなかエージェンシー(以下、MMA)」で共に働くことになった。

館「ぼくは富山で生まれ、新潟で育ちました。人口が多く都会的な雰囲気がある新潟市に住んでいたのですが、初めて前橋に来たときは『遊ぶところがないなあ』と思いました(笑)。駅前のけやき並木通りだけは何故か印象に残っていて、『自転車ですら走りやすさそう』なんて思っていました」

吉田「館さんとは反対に、ぼくの地元はものすごく田舎だったので、前橋は都会的に映りました。商店街への憧れが強かったこともあり、学生時代にはまちなかの研究をしていました。そんなある日、リサーチでアーツ前橋に立ち寄った時、『ちょっと片付け手伝ってくれる?』と学芸員さんに声を掛けられたんです。手伝いが終わると、そのまま飲み会に誘われて、初めて会う大人たちとワイワイ過ごしました。その時、まちなかに住んでいる

れば、ひよんなことから様々なタイプの人たちと知り合ったりできるんだなって思っただけです」

館「ぼくはまちなかやシェアハウスといったことには特に興味がない人間でしたが、家賃が安いと聞いて住み始めてみると、徐々に価値観が変わっていききましたね。お腹が空いたら同居人を誘ってまちなかの飲食店へ向かう、面白そうなお店があったら一緒に出掛けるといった具合に、気がついたら、徒歩圏内で行けるお店やイベントを、積極的に楽しむようになっていました」

吉田「大学院を卒業してすぐに、MMAに就職しました。当時商店街で行われていたイベントの運営を手伝ったことがきっかけで、代表理事の橋本さんと出会ったんです。建築の勉強も継続しつつ、これまでまちなかと関わってきたことが生かせる仕事をするのがいいんじゃないかというところで声をかけてもらいました」

館「ぼくは卒業後、前橋市内の設計事務所所で働き始めたんですが、自分が良いと思ったデザインを提案しても、必ずそれが上手くいく訳ではなく、苦勞の連続でした。次第に、建築のことだけやっていても、視野が狭くなってしまいうるかもしれないと考えるようになり、吉田くんに相談を持ちかけました」

吉田「一緒に住んでいるのに、なぜかファミリーと呼び出されたことを今でもよく覚えています(笑)」

館「今のまちづくりって、極端に言うところ

官民の負担を減らすために全部広場にするといような引き算タイプが多いのになって気がするんですよ。ぼくは建築というものが大好きなので、建築にもっとできることがあるんじゃないかと思っていました。そんな中でMMAは、建築物をつくることで、まちを変えるんだという力強さを感じました」

チャレンジしやすい まちのスケール感

吉田「このまちには、あらゆるきっかけがごろごろ転がっています。商店街では、お店の方や知り合いとすれ違いざまに挨拶をして、イベントではたまたま来ていた友人と語り合います。他にも取材や打ち合わせ、まち案内などを通して本当に様々な人に出会えますし、最近増えてきたアート関連の動きや新しいお店のオープンなどからも、色々な発見があります。その気になってセンサーを動かせば、働き口や新しい趣味を見つけることができるでしょうし、どんなふうにも変化したり、進むことができるまちだと思います」

吉田「このまちのスケール感なら、チャレンジがしやすいと思います。自分にやりたいことがあって悩んでいる人は、前橋でやってみたら面白いんじゃないでしょうか。若い人や新しいことを始める人が沢山いますし、地元の新潟にもまちの動きをシェアしたいと思うくらい、毎日が面白いことだらけです」

金井「素敵なお店が増えてるのも嬉しいですよ。なか又の隣にある手打ちパスタ店のGRASSA、タイ料理のセマクテやガレット屋さんのcafe le coconなど、つい立ち寄りたくなってしまいうようなお店ばかり。欲を言えば、ヘルシー系のお店もほしいな。毎日ヨガをしてチアシードとかアサイーを食べたりしたいです」

吉崎「サラダボウルのお店、近くにあって絶対使いたい」

金井「自宅でもできるんだけど、外で食べたほうが気持ちいいんですよ」

吉崎「前橋も、古い建物をリノベーションして使うお店がもっと増えたらいいですよ。ただ、普段の生活という面では暮らしやすいまちだなと思います。帰省やお仕事で東京方面へ行く時もアクセスがいいです。お菓子教室に来てくださっているママさんたちも、子育てがしやすいまち」と話しています。一方で、車社会だから全然歩かなくなってしまうました。東京に行ったとき、乗り換えで息が切れちゃって……やばい！運動不足です(笑)」

金井「やっぱり、歩きたくなるようなまちがあるといいってことじゃない?」

吉崎「うん、そうかもしれないね(笑)」

金井「早く新しいお家を決めるから、一緒に飲みに行こうね。歩こう!」

吉崎「その日がやってくるのを楽しみにしています!」

「susono」vol.3(平成30年3月1日発行)発行時の記事を元に一部加筆・修正しました。